

為替週間展望 = ドル円は上値の重い動きか

[3月2日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		2月24日～2月28日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	111.61	111.68(24)	108.80(28)	108.81	-2.80
ユーロ・ドル	1.0846	1.1008(28)	1.0805(24)	1.1002	+0.0155

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,142.96	-2243.78	日本10年債利回り	-0.154	-0.098
ダウ平均株価	25,766.64	-3225.77	米10年債利回り	1.261	-0.211

=====

<来週の主要経済統計等>

- 2日 中国2月財新製造業購買担当景気指数
スイス2月消費者物価指数
米2月ISM製造業景況指数、米1月建設支出
- 3日 豪1月住宅建設許可件数
豪第4四半期経常収支
豪中銀(RBA)政策金利
スイス第4四半期国内総生産(GDP)
ユーロ圏1月生産者物価指数、ユーロ圏1月雇用統計
- 4日 豪第4四半期国内総生産(GDP)
ユーロ圏1月小売売上高指数
米MBA住宅ローン申請件数
米2月ADP雇用統計
カナダ銀行(BOC)政策金利
米2月ISM非製造業景況指数
米地区連銀経済報告(ページブック)
- 5日 豪1月貿易収支
米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数
米1月製造業受注
- 6日 日本1月勤労者世帯家計調査
豪1月小売売上高
日本1月景気動向指数速報値
独1月製造業受注指数
米2月雇用統計、米1月貿易収支
カナダ2月雇用統計、カナダ1月貿易収支
カナダ2月Ivey購買部協会指数
- 7日 中国2月貿易収支

【前回のレビュー】日本での新型コロナウイルスの感染拡大が「円売り」要因との見方も徐々に台頭しつつある。そうした中、ドルの堅調さが継続するとみられ、新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感は一貫して根強い中、ドル買い円売りの動きが進みやすいとみられ、ドル円は堅調な推移が見込まれるとした。

【新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への警戒感が広がる】

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への警戒感が広がっている。韓国では連日で感染者数が増加しているほか、ブラジルでも感染者が確認されている。なお、米疾病対

策センター（CDC）は米国でもいづれ感染拡大が起きるとの見通しを示している。

日本時間の27日午前に行われた記者会見で、トランプ米大統領は米国民へのリスクは非常に低いとの見解を示した。その一方で、米食品医薬品局（FDA）は新型コロナウイルスはパンデミック（大流行）に向かっているとの見解を示した。27日に世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は新型コロナウイルスの感染拡大はパンデミックの可能性が高いとの見方を示して、各国へ警戒を促した。

世界的な流行への警戒感もあり、米国株をはじめとして多くの国で株価は値を崩している。NYダウは24日に1031ドル安、25日に879ドル安と急落した。26日は一時下げ止まったものの引けでは123ドル安となった。27日には1190ドル安と過去最大の下げ幅となった。日経平均も連日で値を崩している。

ドル円は19～20日に日本売りの動きとなって、ドル買いに円売りが重なって112円台前半まで上昇した。21日以降のドル円は下げに転じており、日本売りによる円売りから、リスク回避の円買いに転じている。米国での感染者の発生もあり、ドルインデックスは20日の99.91前後から27日に98台前半まで下落している。

米国株が値を崩していることもあり、安全資産への資金シフトから米国債が買われて利回りが低下している。米10年物国債利回りは2月中旬に1.60%超だったものの、その後急速に低下して、1.23%前後まで低下して、過去最低水準となっている。

米連邦公開市場委員会（FOMC）では、当初今年の利下げはないとの見方が広がっていた。このところは新型コロナウイルスの影響で株価が急落していることもあり、年内は2回以上の利下げを見込む動きとなっている。最近の米国株の急落は利下げ催促相場とも受け取れる。こうした中、トランプ米大統領は米連邦準備制度理事会（FRB）へ利下げを要求している。CME FEDウォッチでは3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）までの利下げ確率は97%前後まで上昇している。

ドル円は112円台前半から25日に一時110円割れまで下落したものの、その後は110円台を中心とするもみ合いが続いた。ただ、27日には110円を割り込み、28日には109円を割り込むなど、リスク回避の円買いモードとなっている。新型コロナウイルス関連の報道や日本、米国、中国の株価動向や米長期金利の動きを眺めながら、ドル円は上値の重い展開なりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、107.50～110.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、2日に米2月ISM製造業景況指数、米1月建設支出、3日にスーパーチューズデー（米大統領選）、4日に米MBA住宅ローン申請件数、米2月ADP雇用統計、米2月ISM非製造業景況指数、米地区連銀経済報告（ページブック）、5日に米新規失業保険申請件数、米第4四半期非農業部門労働生産性指数、米1月製造業受注、6日に日本1月勤労者世帯家計調査、日本1月景気動向指数速報値、米2月雇用統計、米1月貿易収支などがある。

【ユーロドルは買い戻されて大きく戻す】

ユーロドルは下げトレンドが長らく続いて、1.0800ドルの節目を割り込んだ後、戻り歩調に転じている。米国での新型コロナウイルスの感染者が発生したことや米国株の急落から、リスク回避のドル買いの動きが一服したことなどがユーロドルの上昇につながった。また、ドイツのシュルツ財務相が債務に苦しむ州政府の歳出余地を広げるため、憲法に基づく借入制限の一時的な解除を検討しているとの報道も好感されているようだ。

ユーロドルはこれまでの下げトレンドの反動などから堅調に推移するとみられる。ただ、このところの上げは大幅な下げの反動高によるところも大きく、一本調子での上昇は難しいとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0850～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、2月29日に中国2月製造業購買担当者景気指数（PMI）、3月2日に中国2月財新製造業購買担当景気指数、スイス2月消費者物価指数、3日に豪1月住宅建設許可件数、豪第4四半期経常収支、豪中銀（RBA）政策金利、スイス第4四半期国内総生産（GDP）、ユーロ圏1月生産者物価指数、ユーロ圏1月雇用統計、4日に豪第4四半期国内総生産（GDP）、ユーロ圏1月小売売上高指数、カナダ銀行（BOC）政策金利、5日に豪1月貿易収支、6日に豪1月小売売上高、独1月製造業受注指数、カナダ2月雇用統計、カナダ1月貿易収支、カナダ2月IVEY購買部協会指数、7日に中国2月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。